

開校から40年 “緑のプロフェッショナル” を育成する



東京グリーンコーディネータカレッジ

設置・運営 ●東京グリーンサービス事業協同組合
所在地 ●東京都品川区西五反田2-24-9 Nビル(2015年4月から)
訓練課程 ●園芸サービス系 園芸科
訓練期間 ●1年



東京グリーンコーディネータカレッジは、職業能力開発促進法に基づき東京都の認可を受けて東京グリーンサービス事業協同組合が設置・運営している職業能力開発施設。

東京グリーンサービス事業協同組合は、園芸装飾、貸植木等の屋内緑化装飾業を主として営む者を組合員として構成され、観賞用植物による室内及び室外の装飾についての技術の向上、屋内緑化装飾業のデザインの向上を図り、さらに都市の生活環境に憩いと潤いを与え、屋内緑化装飾業の健全な発展に寄与することを目的としている。

基本理念

同校は、1976年に「東京グリーンサービス事業高等職業訓練校」として全国で唯一の園芸事業内訓練校として開校、2006年に現校名に変更された。

事務局長の桂田茂氏は、同校の教育訓練の理念について「本校は、インドア空間を中心とした、グリーン装飾に関する基本的な教養、実技やテクニク、資質の育成、さらに正しい技術を持つものの地位向上と強化のために設立・運営されています。組合員の子弟や従業員の方でプロフェッショナルを目指す方のための専門校です。生徒数は年によって異なりますが、今まで500名近い卒業生を送り出しています」と話す。

教育・訓練の特徴

ジャパンフラワーショー、全国総合

技能展への出展や、農林水産省南支関ホールに園芸装飾寄植え作品を制作展示するなど、技能試験や展示会に照準を合わせた実践的なカリキュラムを進め、在校期間中に500時間近い集合教育を行い、海外研修や植物園見学などの外部研修も多く取り入れている。組合員のほか外部講師として大学講師や華道師範など各分野の専門家を招いている。

「本校の講師は大変充実しており、内部講師以外に、観葉植物開発普及協会の会長で熱帯・亜熱帯植物の權威の田中耕次先生をはじめ、薬品・肥料メーカーのOBの方などに来ていただいで、ほかでは聞けない話をしていただいでいます。教科書だけではなく、実際の現場のナマの声を聞くことによつて、知識・技能もより身につけていくのだと思います」(桂田事務局長・以下同)

充実しているのは講師だけではなく、研修には都内の公園、植物園はもちろん、奄美大島やサイパン島まで出かける。

「観葉植物は四季折々で違います。その違いを実際に生えている場所で感じ取ってもらおうのが狙いです。生徒は植物を見ながら先生の話をメモしたりスケッチしたりで大変な研修ですが、卒業研修で奄美大島やサイパン島に行くことで、普段は植木鉢に植わっている姿しか見たことのない、何メートルにもなる熱帯植物の自生している原木を自分の目で見て触るといふ体験をす

る。さらに田中耕次先生の講義を聞いて、今後自分が園芸職人としてどのように生きていくのか、決意を新たにしようです」

緑化の発展に貢献

修了者(技能照査試験合格者)には、東京都知事より園芸装飾技能士補が付され、2級検定試験受験に際して学科試験が免除される。修了後、多くは家業を継いだり、組合員企業に勤めて、同校で学んだことを生かしながら活躍している。

「植物がファッション・シンボルやアメニティ・シンボルとしての装飾効果を期待されている今、単なる「植木職人」で終わらせないために、生活環境やインテリアに対する知識や技能も身につけたトータル・コーディネーターのエキスパートの育成を目指しています。少人数制によるきめ細かな指導を行い、確かな技術を身につけてもらいたいと考えています」

室内園芸装飾は、わが国ではデパートでのクリスマスツリーの飾りつけ、空港ロビーでの門松等、さまざまな需要はあると言えるが、年々、植木屋自体が減退の一途をたどっている状況にある。桂田事務局長は、「地球温暖化等環境問題に植物は大きな効果を発揮します。これからも『生活空間への緑の演出』の普及を図り、少しでもわが国の緑化産業の発展に貢献していきたいですね」と話し、緑のプロフェッショナルの未来に期待を込めた。